

１．基本的な仕組み

- あらかじめ、評価等の「仕組」と「基準」を設定します。
- 審議会の答申を受け、市が決定します。

【主体】
審議会＋市



- 市や市民などが事業を実施します。
- 実施にあたり、「基準」となる数値を収集します。

【主体】
市＋市民等

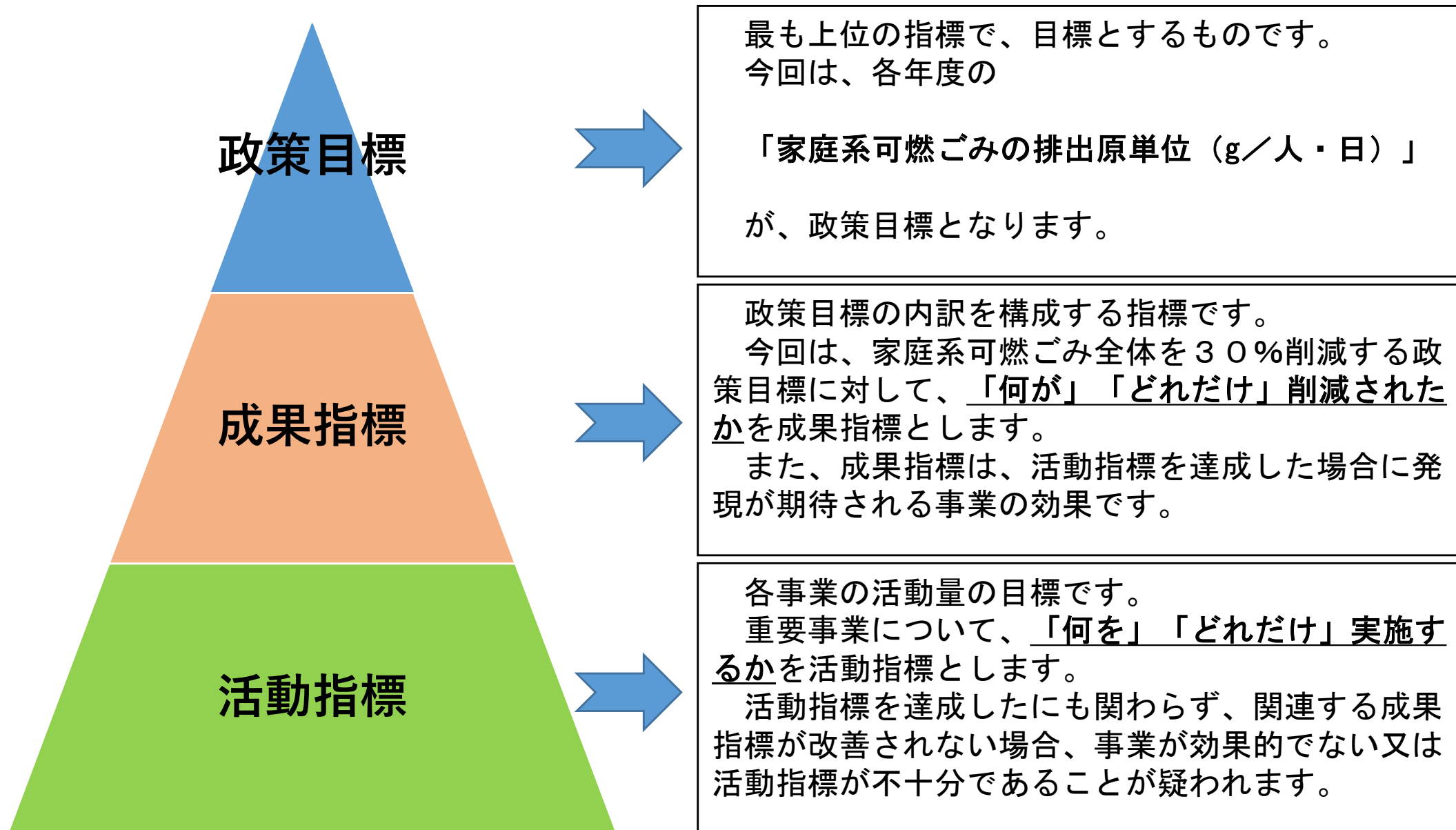
【主体】
審議会

- 審議会による点検・評価の結果を踏まえ、事業を改善します。

- 実施した結果を、あらかじめ設定した「基準」により点検・評価します。
- 評価は、「事業仕分け」の方法を採用します。

2. 点検・評価の基準

3段階で基準を設定し、体系的に実施します。



3. 目標と指標の関係性（イメージ：平成37年度）

政策目標

もったいない
プランの目標値

家庭系可燃ごみ
排出原単位

326g／人・日

【成果指標による削減量】

約135g

成果指標

古紙類の混入量

約60g×0.2＝約10g

一般厨芥類の重量

約180g×0.9＝約160g

他の分別の混入量

容器包装：約30g ⇒ 0g

びん・缶：約3g ⇒ 0g

手つかず食品の混入量

約30g×0.2＝約5g

廃プラスチックの重量

21.3g ⇒ 14.2g

もったいないプランの減量目標（削減効果）

活動指標

雑紙袋の配布枚数

古紙类等集団回収による収集量

バイオ式生ごみ処理容器貸出件数

バイオ式生ごみ処理容器購入補助実施件数

地域学習会・出前講座の開催回数

フードバンク活動等への支援件数

市民提案型ごみ減量活動への支援件数

地域学習会・出前講座の開催回数

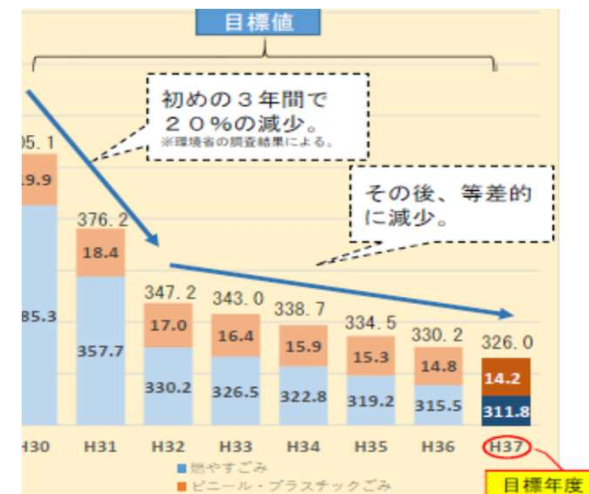
重要事業

4. 各年度の基準の設定

政策目標

現状から3年間で20%減少させ、その後は目標年度まで等差的に減少させます。

《資料-1 スライド1》



成果指標

現状(H27組成調査)から平成37年度の成果指標まで、政策目標の各年度の減少割合と同様に減少させます。

※H27組成調査が、最新のごみの組成に関する調査結果です。

また、新たに追加すべき指標や削除すべき指標があれば、答申へ反映させます。

成果指標を評価するため、毎年、ごみの組成調査を実施します。

毎年10月ごろ

活動指標

ごみ減量に向けた事業の検討（議題2）において設定した、重要事業の事業量を活動指標とします。

原則、毎年同じ数量ですが、点検・評価の結果、現状の目標事業量が低い（高い）と判断すれば変更できます。

各重要事業の点検・評価については、「事業仕分け」の方法を採用します。

※「事業仕分け」については、次回に詳しくお話しします。

5. 議論の進め方（論点と到達点）

ステップ1

基本的な点検・評価・改善の仕組みの確認

点検・評価・改善の基本的な仕組みについて、スライド1及び2を案として確認します。

ステップ2

政策目標と成果指標の項目を確認

政策目標については、これまでの審議会における議論の前提となっているため、検討の対象ではありません。（変更できません。）
成果指標の項目について、新たな追加や削除を検討します。

ステップ3

具体的な成果指標の設定

成果指標の各項目について、各年度の具体的な基準を設定します。
また、新たな項目については、成果指標の計測方法についても検討します。

ステップ4

活動指標の確認

活動指標は、重要事業の事業量なので、議題2で確認できています。
どの成果指標と関連があるか、成果指標に照らして十分な事業量かを確認します。
また、「事業仕分け」による各重要事業の点検・評価と改善の手法について確認します。

第2回審議会の
到達点

次回以降の
検討テーマ